AZS
AVIATION
AZUSA SEKKEI
ARCHITECTURE DESIGN OFFICE

How Airport Terminal Will Change with COVID-19

株式会社 梓設計
交通インフラドメイン 新型コロナ対策研究会
2020.06.19 Ver.01

新たな
ライフスタイルとなる
空港を見据える

梓設計は永く航空業界の皆様に施設設計活動を通じて社会貢献の一端をご支援させて頂いております。

交通インフラである航空分野もこの度の新型コロナウィルスの影響を受け、今後は新たなライフスタイルを見据えた空港施設の考え方が必要になってきています。今後も梓設計は航空業界の皆様のご指導を頂きながら、**さまざまな施設・設備の検証、安全性の検証、施設計画など**積極的に提案を継続して参ります。

定期航空協会・一般社団法人全国空港ビル事業者協会にて策定されております、**『航空分野における新型コロナウィルス感染拡大予防ガイドライン』に対する施設提案**も具体的に行っていきたいと考えています。

梓設計の５つの提案

1 従業員向けの対策への提案

従業員と来訪者の接触回避や対人距離の確保、適切な換気や消毒の実施に向けて、施設として**ソーシャルディスタンスを確保したスペース検討**、**換気量・ルートの再検証**、感染リスクの少ない**従業員動線**の検討などにより、従業員にとって**清潔・安心・安全に働ける施設計画**を提案します。

2 利用者向けの対策への提案

カーブサイド、ロビー、保安検査場、手荷物受取所、商業エリアなど、**各エリアの施設規模をシミュレーション等で検証**し、課題を抽出します。
暫定的な運用にも対応可能な、利用者に分かりやすい新たな**全国空港共通のサイン計画**も必要と考えます。
また、これまで進められている空港の**FAST TRAVEL 化**や、清掃・案内・駐車場等における**サービスロボットの活用**など、先進技術の発展・普及の拡大も考慮し、利用者にとっての更なる利便性の向上、且つ清潔で安全・安心に過ごせる施設計画を提案します。

3 国際線ビルの対策への提案

国土交通省航空局や、WHO、IATA、ICAO など上位レベルで様々な検証が行われています。様々な見地に立って今後の動向を理解し、新たなライフスタイルとなる空港を見据えた、国際線の施設計画を提案します。
今後、世界の基準値や検疫システムの高度化などがさらに推進されると想定し、入国者に対する PCR 検査場や待機スペースの検討など、予測される施設を積極的に提案します。

4 SDGs アクションプランに向けた提案

SDGs(持続的な開発目標) を理解し、空港の施設においても先進技術、環境技術、防災対策などの基本理念を積極的に取り入れ、皆様のご指導を頂きながら施設提案を行っていきます。

5 BCP 対策の再検証

感染症に限らず、今後も自然災害等による予期せぬ事態の発生や、刻々と変化する被害状況について把握し、梓設計は空港施設のＢＣＰ計画を常に再検証していきます。

従業員のみなさまにも、旅客のみなさまにも、

安心感を提供する ために。

1 清潔な空間づくり

- 適切な換気
- タッチレス
- 清掃性の良い仕上げ
- 清掃ロボット

2 感染機会を減らす

- ソーシャルディスタンスのしかけ
- 従業員との対面を減らす
- 生体認証
- 入国時 PCR
- 入口消毒

3 安心が目に見える

- 明快なサインで人を誘導し、迷わず安全な行動をとれる
- 消毒ロボット
- 音声誘導
- 検温実施